

「いいだ未来デザイン2028」の中期計画最終年へ向けて  
～令和5年度「議会による行政評価」からの評価及び提言書～  
への対応状況

長野県飯田市

基本目標1 稼ぎ、安心して働ける「魅力ある産業」をつくる

No.	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
		(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
1	・更なる地域ブランドの情報発信、また地域資源の発掘に取り組まれない。	・(公財)南信州・飯田産業センターが、地域資源を活用した新たなブランド地域製品の創出など、異業種・産学官民によるオープンイノベーションを実現するためのプラットフォーム構築を進めています。関係者間の交流、地域ブランド化で必要となる知識の習得など、意欲ある事業者、関係者による地域ブランド化の取組、チームづくりから販路開拓まで一貫して支援する体制の構築を支援していきます。	1-① 地域産業の育成による高付加価値化 【分野別計画】 地域経済活性化プログラム
2	・コロナ禍での状況を乗り越えられるような、農畜産物の高付加価値化や6次産業化など、多くの事業者が地域資源を活用した商品開発や販売に連携協働し取り組んでいけるような施策展開に期待する。	・分野を超えた連携は、高付加価値化や販売に有効と考えています。市田柿のデジタル観測システムの開発、販売はその典型例ですが、将来にわたって安定的な生産・供給ができるよう、令和5年度から6年度にかけて普及を強く促進していきます。 ・エス・バードを拠点に多様な分野との連携促進を図るため、(公財)南信州・飯田産業センターが、地域資源を活用した新たなブランド地域製品の創出など、異業種・産学官民によるオープンイノベーションを実現するためのプラットフォーム構築に参画し、交流会などのマッチングイベントやセミナー等の開催により、地域資源を活用した商品開発や販路開拓を支援していきます。 ・今後も、農業分野と(公財)南信州・飯田産業センターや飯田商工会議所等との連携を深めていきます。	1-① 地域産業の育成による高付加価値化 【分野別計画】 地域経済活性化プログラム 飯田市農業振興ビジョン
3	・地域内経済循環には消費者の行動も重要になるが、これらの取り組みは意識調査に留まっている。消費者への重要性を理解していただくための施策展開が必要。	・消費者の行動変容を促すため、大阪大学行動経済学研究センターとの共同研究による地域製品の購入状況の調査、分析を行っています。その結果を踏まえ、行動経済学の介入による実証研究を行い、地域製品の消費拡大に向けた事業を進めていきます。	1-② 地域経済循環の推進 高付加価値化 【分野別計画】 地域経済活性化プログラム
4	・地域内経済を循環させるための一つの手法として、地域通貨(デジタル)について検討されたい。	・地域通貨は、地域経済循環促進に有用とされる「地域マネー」とコミュニティ活性化に有用とされる「地域ポイント」の2つの側面があり、産業経済部では「地域マネー」を、他部課では「地域ポイント」についてそれぞれに研究を進めてきました。 ・これまでの先進事例の研究及び実証実験を踏まえ、「地域マネー」を切り口に関係機関で構成する研究会において報告書を取りまとめました。 ・報告書において地域通貨導入は一定数以上の利用者を維持し続けるための魅力的な地域ポイントの付与が必須とされたことを踏まえ、令和6年度において地域ポイント付与による魅力創出の観点も含め、実証実験の実施に向けて事業を推進していきます。	1-② 地域経済循環の推進 高付加価値化 【分野別計画】 地域経済活性化プログラム

基本目標1 稼ぎ、安心して働ける「魅力ある産業」をつくる

No.	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
		(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
5	<p>・起業家ビジネスプランコンペティションは、新たな起業家・新事業の掘り起こしにつながっていること、事業承継に対する事業者の意識調査(アンケート調査)を行ったことは評価できる。一方で、高齢の代表者が30%以上を占めており、後継者不足など課題が山積みされている中、早急な施策の展開が必要。</p>	<p>・事業承継支援については、本年度から市で事業承継コーディネーターを選任し、アンケート調査の回答者のうち優先順位の高い100社を対象として、長野県事業承継・引継ぎ支援センター、飯田商工会議所との3者連携による個別相談支援に取り組んでいます。しかしながら、事業承継は一朝一夕に解決できるものではなく、センシティブな部分もあることから、引き続き令和6年度以降も、県や会議所等と情報共有をしつつ、連携した支援を継続していきます。</p>	<p>1-③                      事業継続と新たなビジネスモデルの創出、事業再構築、起業家の育成  <b>【分野別計画】</b>                      地域経済活性化プログラム</p>
6	<p>・若い女性が一度転出してしまうと当地域へ戻ってこない傾向があると認識している。なぜ、そうした状況になってしまうのか、更にデータを深掘した分析が必要。</p>	<p>・いいだ子育て応援アプリを活用して実施した「産み・育てながらくらしやすい地域づくりのためのオンライン調査」では、約60%の女性が短時間での働き方を望んでいることが分かりました。令和6年度は、デジタルスキルアップにより多様な働き方の選択が可能となるよう、女性を対象とした事業に取り組み、若い女性のニーズに対応していきます。</p> <p>・また、当地域には飯田短期大学があり、学生の約半数は地域外からの進学者です。地域唯一の高等専門学校である飯田コアカレッジは、数年前と比べて学生数が増加しています。このことを地域の強みと捉え、高等教育機関とも連携しながら、産業人材の確保に取り組んでいきます。</p>	<p>1-④                      地域産業を支える担い手・企業人材の育成・確保  <b>【分野別計画】</b>                      地域経済活性化プログラム</p>
7	<p>・現在、ワークライフバランス推進に係る認定制度として、子育てに係る国の認定制度「くるみん」、女性活躍に係る国の認定制度「えるぼし」、長野県の認定制度「職場いきいきアドバイスカンパニー」等があるが、市内の事業所の状況を考えると少しハードルが高いように感じる。小規模な企業も取り組むことができ、それを市が支援できるような市独自の認定制度を検討していくことが必要。</p>	<p>・国の認証制度は少しハードルが高いことは認識していますが、一方で県の認証制度である「職場いきいきアドバンスカンパニー」は、制度内容がわかりやすく認証取得に対する支援体制が整っていることから、認定を目指す事業者が徐々に拡大している状況を踏まえ、市独自の認証制度の検討は行いません。</p> <p>・市としてはワーク・ライフ・バランスの取組が促進されるように、国のくるみん、えるぼし等の認定、県の職場いきいきアドバイスカンパニーの認証を周知しつつ、新たな支援策として、認定・認証取得者を対象とする市独自の低金利かつ利子補給の制度資金を新設し、市内事業者の認定等取得への動機付けとなるよう取り組んでいきます。</p>	<p>1-④                      地域産業を支える担い手・企業人材の育成・確保  <b>【分野別計画】</b>                      地域経済活性化プログラム</p>
8	<p>・「3大都市圏等からの移住就農を促すため」とあるが、今後の方向性として、ターゲットを3大都市圏に絞ることによる有効性をしっかり検証していくことが必要。</p>	<p>・地域おこし協力隊の制度を活用した農業研修を令和5年度から導入していますが、対象となるのが3大都市圏等の都市住民となっています。飯田市での新規就農については、都市住民の田舎志向も強くなっていることから、しっかりと需要に応えられるようにしていきます。</p>	<p>1-④                      地域産業を支える担い手・企業人材の育成・確保  <b>【分野別計画】</b>                      地域経済活性化プログラム                      飯田市農業振興ビジョン</p>

基本目標1 稼ぎ、安心して働ける「魅力ある産業」をつくる

No.	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
		(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
9	・農林業従事者や技術者の育成、人材確保につながる施策(例えば資格取得の支援、幼少期の学習・体験活動)など、更なる取り組みが必要。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業用マルチローター(ドローン)ライセンス取得など農業経営向上に資する先進的な営農手法や技術等を取得する活動に支援をしていきます。</li> <li>・いいだ親林学校や未来のモリビト育成講座を通じ、森林や林業への関心を高めてもらい、担い手の発掘・育成を図ります。また、飯田きこり塾養成を通じ、林業に必要な技術習得の機会を作り、自伐型林家の育成に繋がります。</li> <li>・森林経営管理制度の施行に伴う意向調査業務を通じ、山林所有者や森林状況の把握、経営計画の樹立手法などのノウハウを習得させながら、林業後継者として育成するための雇用を創出しています。</li> </ul>	1-⑤ 地域に根差した農林業の推進 【分野別計画】 地域経済活性化プログラム 飯田市農業振興ビジョン 飯田市森林整備計画
10	・森林経営管理制度を推進する上で、令和3年度から複数年かけて順次、森林所有者等を対象に「意向調査」を実施していると認識している。森林を集約化、団地化していくためには、境界や所有者不明などの課題を解決していくことが必要。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林経営管理制度に基づく森林整備には、集約化した区域の計画の実現性も検討する必要がありますが、課題(境界確定、施業計画、実現性の検証等)が多い状況です。</li> <li>・森林整備箇所について、県・市が保有する情報に加え、信州大学の解析技術を活用することで課題解決を進めていきます。得られた解析結果を踏まえ、森林資源量や地形情報を複層化して検証を進めることにより、実現性のある搬出方法(作業道、架線集材機の設置)の検討につなげていきます。</li> <li>・意向調査の実施状況(令和5年度実施中を含む) 森林簿の地番数403筆、368haとなっています。</li> </ul>	1-⑤ 地域に根差した農林業の推進 【分野別計画】 地域経済活性化プログラム 飯田市森林整備計画
11	・竹林整備を推進するため、竹林を資源として考え、竹を原材料とした地域独自の製品化を含めた活用の可能性を検討されたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・竹林整備については、「多様な主体との協働による里山・竹林整備支援事業」で、地域と一緒に取り組んでいます。</li> <li>・竹を破碎したチップ材は、果樹園等でマルチング材としての活用を行っていますが、更なる活用に向けて研究を進めます。</li> </ul>	1-⑤ 地域に根差した農林業の推進 【分野別計画】 地域経済活性化プログラム 飯田市森林整備計画
12	・そらさんぼ天龍峡をどう活かすか、遊歩道や温泉交流館を活用した「クアオルト(保養地)」の研究に取り組んではどうか。(山形県上山市では、都市部の大企業の従業員が健康増進のため定期的に訪れている事例あり)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天龍峡では、拠点施設である天龍峡大橋(そらさんぼ天龍峡)、天龍峡PA、温泉交流館、遊歩道等の整備が進んできていることから、エリア全体の魅力を高めて滞在周遊型の観光の構築を目指しています。そのための取組のひとつとして、保養や健康増進を主旨としたクアオルトやウォーキング等の取組について、地元観光協会等の団体へ事例紹介し、上山市のほか市内のウォーキングイベントの事例等も参考にしながら、天龍峡での取組の実現に向けた検討を始めたところです。今後も、観光協会をはじめ関係団体の理解や協力を深めながら、実装に向け天龍峡の特色を生かした研究を進めたいと考えています。</li> </ul>	1-⑥ アフターコロナの観光産業の推進 【分野別計画】 地域経済活性化プログラム 飯田市観光振興ビジョン

基本目標1 稼ぎ、安心して働ける「魅力ある産業」をつくる

No.	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
		(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
13	<p>・新たな旅行の形態として「アドベンチャーツーリズム」というものがあり、海外では一定程度浸透している。①自然に触れ合う、②文化交流をする、③ウオークやカヤックなど身体的アクティビティをする、この3項目のうち2つを満たしていればこの旅行形態に該当する。飯田下伊那地域を視野に入れ、研究に取り組んではどうか。</p>	<p>・飯田下伊那エリアでは、豊かな自然、伝統文化、自然体験やアクティビティなどアドベンチャーツーリズムを構成し得る多くの要素があります。南信州観光公社では、すでにエコツーリズムやグリーンツーリズムに加え、アドベンチャー要素を含む地域資源を体験プログラム化し教育旅行の受入れや個人旅行者向けのコンテンツ造成を行っています。アドベンチャーツーリズムの括りでPRしていくことも可能であることから、アドベンチャーツーリズムによる観光誘客に関する研究を進めるとともに、広域観光を推進する観点から、関係機関との広域連携の深化を図っていきます。</p>	<p>1-⑥                      アフターコロナの観光産業の推進                      【分野別計画】                      地域経済活性化プログラム                      飯田市観光振興ビジョン</p>
14	<p>・今後もリニア・三遠南信自動車道全通(主要道路網整備も含む)を見据えた、戦略的な企業誘致に期待したい。</p>	<p>・本年度、土地利用計画の見直しに伴い、リニア・三遠南信時代を見据えた企業誘致方針を作成しています。今後、この方針に基づき、飯田の特性・強みを活かした、戦略的な企業誘致に取り組んでいきます。</p>	<p>1-⑦                      企業誘致、オフィス誘致の推進                      【分野別計画】                      地域経済活性化プログラム</p>
15	<p>・今後の方向性として、企業誘致については、通常の広報に加え、人脈やネットなどあらゆる手段を駆使し取り組まれない。</p>	<p>・リニア・三遠南信時代の企業誘致を積極的に推進するために、長野県(東京事務所、名古屋事務所)等との連携を強化しつつ、名古屋企業懇話会や本年度から開始したリニアまちづくり東京懇談会などを通じ、飯田市出身者等とのネットワークを最大限活用し、企業誘致に取り組んでいきます。</p>	<p>1-⑦                      企業誘致、オフィス誘致の推進                      【分野別計画】                      地域経済活性化プログラム</p>

基本目標3 “結いの心”に根ざす教育を実践し、豊かな心とリニア時代を生きる力を育む

No.	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
		(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
1	・ICTを児童生徒が自己に合わせて使えるよう取り組まれたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会では、協働的な学びと個別最適な学びの一体的な充実を目指しています。</li> <li>・個別最適な学びにおいては、デジタル教科書の活用やデジタル副教材を活用して、自分に適した内容を適した方法で学んだり、自ら計画を立てて主体的に学べるように、教育委員会の指導主事が伴走型の授業支援を行っています。</li> <li>・また、授業改善や家庭学習にかかわる実践事例を集め、各校へ広めている現状です。今後もこうした取組を継続しつつ、研修会でも扱っていく予定です。</li> </ul>	3-① 学力保障・学力の向上 【分野別計画】
2	・教職員の負担軽減を図りながら、ICTの有効利用につながる体制強化を進められたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ICT運用を支援するため、令和5年度にICT支援員を、外部委託1名を含む5名(うち2名は兼務)としたサポート体制を築きました。</li> <li>・今後は、「GIGAスクール運営支援センター」を外部委託で設置することを予定しています。</li> <li>・これまでのヘルプデスク対応をさらに強化し、GIGA端末やアカウント設定等の環境整備支援、定期巡回訪問による校内研修支援、授業支援、校務支援を実施し、学校のICT運用を伴走型で支える支援体制を構築し、教職員の負担軽減にも努めていきます。</li> </ul>	3-① 学力保障・学力の向上 【分野別計画】
3	・小中連携・一貫教育の目的を明確にされたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12年間の飯田市小中連携・一貫教育の振り返りや小中連携・一貫教育の取組がコロナ禍で減速してしまった状況を鑑み、令和5、6年度は、取組の再構築をねらいとして進め、9年間の児童生徒の成長を支えていけるよう取り組みます。</li> <li>・令和7年度以降は、より実効性の高い小中一貫教育への移行を進めていく予定です。</li> </ul>	3-② 温かな人間関係づくりと誰ひとり取り残さない教育や支援 【分野別計画】
4	・特別な支援を必要とする、児童生徒や家庭への「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」が、「担当する組織」が変わっても継続性をもてるシステムを構築されたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な支援を必要とする児童が園から就学する場合は、「引継ぎシート」によって支援内容が引き継がれ、小学校において「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」が作成されています。</li> <li>・これらの資料に書かれている情報が担当者が変わっても途切れないように、各校では個別ファイルに蓄積し、中学校(必要に応じて高校)まで引き継がれています。</li> <li>・また、途切れない連続した支援を可能とするために作成される「個別の教育支援計画」を令和4年度から飯田市統一様式とし作成しており、学校や先生が変わってもスムーズな支援につなげられるようになってきています。</li> </ul>	3-② 温かな人間関係づくりと誰ひとり取り残さない教育や支援 【分野別計画】

基本目標3 “結いの心”に根ざす教育を実践し、豊かな心とリニア時代を生きる力を育む

No.	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
		(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
5	・奨学金の拡充は評価する。今後、さらなる拡充支援を検討されたい。	・飯田市奨学金貸与条例及び貸与条例施行規則を改正し、令和5年度から奨学金を必要とする生徒がより借りやすく、実効性の高いものに改善しました。 ・今後は、より一層制度の周知に努めるとともに、学校・保護者などの意見も踏まえ、新しいニーズには柔軟な対応をしていきます。	3-② 温かな人間関係づくりと誰ひとり取り残さない教育や支援 【分野別計画】
6	・不登校に至る前の支援を強化されたい。	・温かな人間関係づくりのできる学校・学級集団となるために、職員会や学級経営に関わる会議を実施し、そのなかで不登校傾向のある児童生徒の対応について協議したり、スクリーニング会議を実施して支援の方向を検討したりしています。また、Q-U調査の実施学年を拡充しており、学級集団のアセスメントを行うことでより適切な支援につなげられるように取り組んでいます。これまで教育委員会では、曾山先生(名城大学)が提唱する人と人のかかわり力をつける「スリンプルプログラム」の研修会を実施してきており、令和5年度から「スリンプルプログラム」に取り組む学校も出ており、児童生徒の変化など様子を注視していきます。	3-② 温かな人間関係づくりと誰ひとり取り残さない教育や支援 【分野別計画】
7	・「家庭の教育力の低下」は認識する。学校、家庭、地域が連携し一体となってどのように取り組むか。	・コミュニティスクールの仕組みを生かし学校・家庭・地域が協働し、目指す子供像の実現にむけて取組を進めて行く中で、家庭の教育力を育むことにつながると考えているので、令和5、6年度は、コロナ禍で停滞したコミュニティスクールの再構築に取り組めます。	3-③ 飯田コミュニティスクールを活かした地域・学校・家庭での教育の推進【分野別計画】
8	・主要10品目の地元産農産物の利用率をさらに高める努力を継続されたい。	・今以上に地元産農産物の利用率を上げていくためには、生産者や流通関係者の理解と協力を得る必要があるため、農業課など関係部門と連携して、取り組んでいきます。	3-④ 食育の推進 【分野別計画】

基本目標3 “結いの心”に根ざす教育を実践し、豊かな心とリニア時代を生きる力を育む

No.	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
		(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
9	・調理中の様子等をライブ配信する取り組みを増やされたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状では、いくつかの共同調理場において、個人のスマートフォンなどの機材を使用して試験的に行っている状況です。</li> <li>・今後、公費で機材を整え、すべての共同調理場で取り組むことができるように検討を進めていきます。</li> </ul>	3-④ 食育の推進 【分野別計画】
10	・農業課との協力による地域有機農産物の枠組みを検討されたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有機農産物は、JAS認証の有機栽培農作物に限定すると、現状では当地域での生産量が限られ、学校給食への導入が困難になるため、農業課が取り組む「地域相互認証制度」に則り、栽培された農作物が増えていくよう協力し、将来的に学校給食に積極的に利用できるような体制づくりを進めていきます。</li> </ul>	3-④ 食育の推進 【分野別計画】
11	・「食育」の一環として「命をいただくこと」の伝え方を検討されたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月発行する「食育だより」の中で、命をいただくことの意味を伝える取組を継続して行っています。</li> <li>・また、地域の養豚農家を学校に招いてお話を聞く、といった食育の取組の中で子供たちに伝えていきます。</li> <li>・今後もこうした形で、子供たちに「命をいただくこと」について伝えていきます。</li> </ul>	3-④ 食育の推進 【分野別計画】
12	・高校生の読書を進めるためにも小中学生への読書の推進を図られたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生が読書に親しむには、小中学生時に読書習慣を定着させることが必要と捉え、本との出会いの機会や読書体験の充実に向けて取り組んでいます。</li> <li>・今後も学校図書館と市立図書館がそれぞれの役割に沿って取り組むとともに、連携を強め協力して小中学生の読書活動の推進を行います。高校司書とも情報交換の機会をつくるなど連携を図っていきます。</li> </ul>	3-⑤ 子どもの読書活動の推進 【分野別計画】



基本目標3 “結いの心”に根ざす教育を実践し、豊かな心とリニア時代を生きる力を育む

No.	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
		(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
13	・読み語りには保護者の協力が必須である。保護者へ、読書の重要性などの周知を進められたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供が家庭で本を読んでもらい読書の楽しさを知る体験をするには、保護者の理解や協力が大変重要です。</li> <li>・市立図書館では引き続き、乳幼児健診時などに直接保護者の方へ読み聞かせの推奨を行うとともに、家庭へ本を届ける取組に合わせて保育所職員とも情報共有しながら保護者への働きかけを行います。</li> <li>・また、子供の読書に関する講座の開催等により、広く読書の重要性を周知します。小学校では読書週間・旬間時の親子読書や図書館だよりなどを通して、保護者の理解・協力を働きかけていきます。</li> </ul>	3-⑤ 子どもの読書活動の推進 【分野別計画】
14	・土曜日預かり、高学年の受け入れ、夏休みなど長期休日の受け入れについて、現場のニーズを把握しながら、スピード感を持って取り組まされたい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜日の預かりは、令和4年度10月から、中学校区単位で拠点施設を定めて対応しております。</li> <li>・高学年の受け入れは、徐々に拡大しておりますが、まだ規模の大きな地区では、施設面の課題があり対応が困難な状況もあります。</li> <li>・また、通年利用者でどこの児童クラブも定員となっているため、長期休業期間中のみの受け入れには対応できない状況です。</li> <li>・関連部署と連携を図り、また他団体などと情報交換を行いながら、新たな受入体制等について検討してまいります。</li> </ul>	3-⑥ 児童の放課後の居場所づくり 【分野別計画】
15	・長期休日の居場所づくりを官民連携して確保に努められたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の児童クラブの枠組みでは受け入れが困難なため、別の枠組みによる取組が必要です。</li> <li>・関連部署や他団体等と連携しながら検討していきます。</li> </ul>	3-⑥ 児童の放課後の居場所づくり 【分野別計画】
16	・放課後子ども教室の担い手確保など各地で苦勞している。課題であるので、地域と協力して積極的な支援を進められたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで、予算面での対応をしてきましたが、地域の担い手の確保が困難になってきていることは課題認識しています。</li> <li>・地域と連携して、人材確保等を検討していきます。</li> </ul>	3-⑥ 児童の放課後の居場所づくり 【分野別計画】

基本目標3 “結いの心”に根ざす教育を実践し、豊かな心とリニア時代を生きる力を育む

No.	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
		(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
17	・各学校区により、諸条件が異なると考えられる。地域や環境を考慮し中身の濃い検討を進められたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度に新たに設置した「飯田市これからの学校のあり方審議会」に、「飯田市立小・中学校のこれからの配置・枠組みのあり方について」と「特色と魅力ある教育活動のあり方について」の2点の諮問を行い、調査審議を進めていただいています。</li> <li>審議会委員からは、地域によって状況が異なる点についても意見をいただき、令和6年度にはより地域性等を考慮した検討を進めていきます。</li> </ul>	3-⑦ 少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組 【分野別計画】
18	・学校運営協議会での綿密な情報共有を図られたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度には、希望のあった学校運営協議会で審議会の進捗状況を説明し、情報共有を図ってきました。</li> <li>令和6年度においては、さらに積極的に学校運営協議会での情報共有を進めていきます。</li> </ul>	3-⑦ 少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組 【分野別計画】
19	・通学路として安全な道路選択が未成熟。街灯の確保が必要な箇所がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校・保護者が、安全な通学路を選択できるよう、道路管理者、警察、危機管理課と行う通学路に関する合同点検を行い、危険箇所等に講じる対策を検証し、ハード整備が効果的な箇所については、関係課や他機関と連携し、安全な通学路の環境整備を計画的に進めます。</li> <li>また、安全指導などソフト面の対策も併せて進めていきます。</li> </ul>	3-⑧ 防犯・通学路の安全対策・環境整備・気候変動適応 【分野別計画】
20	・不審者情報など、学校からの配信で自治体役員へ伝わるが、その後のかわりについて担当課と地域で検討し、進められたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育委員会へ不審者情報などがいった場合は、一斉に学校へ情報提供するとともに、該当する地域の自治振興センターへも情報提供し、まちづくり委員等の方には必要に応じて児童生徒の見守り等を行っていただいています。今後も地域と協働して児童生徒の見守り等を継続をしていきます。</li> </ul>	3-⑧ 防犯・通学路の安全対策・環境整備・気候変動適応 【分野別計画】
21	・年度戦略3-⑧、と年度戦略12-③の内容は重複している。いいだ未来デザイン2028の趣旨から見直されたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度戦略3-⑧は国道事務所、警察、県建設事務所、飯田市が飯田市通学路安全対策アクションプログラムを推進するため「飯田市通学路安全検討委員会」を組織し、合同点検や危険箇所への対策を検討・実施するための戦略計画となりますので、これに関係する部署等は各課の小戦略として関連付けています。</li> </ul>	3-⑧ 防犯・通学路の安全対策・環境整備・気候変動適応 【分野別計画】

基本目標4 豊かな「学びの土壌」を活かした「学習と交流」を進め、飯田の自治を担い、可能性を広げられる人材を育む

No.	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
		(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
1	・市民全体が利用したくなるムトスぷらざとなるよう、さらなる活用方法の検討をされたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ムトスぷらざは、公共交通の結節点である飯田駅前的好立地にあり、飯田市公民館をはじめ、駅前図書館、平和祈念館、ムトスまちづくり活動の支援など様々な機能を有した複合施設であること、自由に利用できるフリースペースがあることなどから、高校生をはじめ多くの人々に利用いただいています。</li> <li>・ムトスぷらざをより多く市民の方々に利用いただくために、引き続き各施設における魅力的な事業やサービスの充実を図るとともに、相互の連携による相乗効果を発揮しながら、施設全体としての魅力が高まるよう取り組みます。</li> <li>・また、ムトスぷらざにおけるふらっと会議やムトスまちづくり支援など、多様な価値観を持った人々の学習、交流、実践活動の支援等を通じて、自身の想いが実現できる創発の場としての機能を高めつつ、その見える化を図ります。</li> </ul>	4-① 住民の主体的な学びあいの支援 【分野別計画】
2	・市民が受け取りやすい情報発信を工夫されたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ムトスぷらざの各施設における活動については、市ホームページや館内の情報掲示板などを活用しながら情報発信に努めています。</li> <li>・飯田市公民館では高校生講座等の学習活動やふらっと会議に関する情報を、共生・協働推進課では高校生講座等の学習活動やふらっと会議に関する様々な情報を、掲示板などを活用し伝わりやすいよう工夫しながら発信しています。</li> <li>・丘の上結いスクエアのWebサイトを活用した情報発信や、ムトスぷらざの創発活動等に関わる方々との連携によるSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)を活用した情報発信など、広報ツールを効果的に活用しながら取り組んでいきます。</li> </ul>	4-① 住民の主体的な学びあいの支援 【分野別計画】
3	・子ども達が与えられた環境ではなく主体性をもって考え実現するよう支援されたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度より高等学校の学習指導要領に総合的な探究の時間が位置づけられました。少子高齢化や人工知能の急速な進展など、予測困難な未来を生きていくためには主体的で対話的な深い学びの実現が不可欠であるとして、その重要性がうたわれています。</li> <li>・近年のこうした流れに先駆けて、小中学校では総合的な学習の時間が平成14年から導入されており、導入時より主体的で対話的な学習が進められ、年々深化してきました。</li> <li>・飯田市は、地育力を活かしたふるさと学習や体験的な学びの実践から主体的で対話的な学びを進めていくことを飯田型キャリア教育として位置付けており、この考え方のもと学校における実践と連携しながら、主体性をもって考え実現する力を身に着けるための支援を行っていきます。</li> </ul>	4-② 子どもの主体性、創造性、社会性、協調性、課題解決力などを育む学習の展開 【分野別計画】

基本目標4 豊かな「学びの土壌」を活かした「学習と交流」を進め、飯田の自治を担い、可能性を広げられる人材を育む

No.	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
		(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
4	・幼児期から高校生までに地域や社会との関わりを重視することで、ふるさとに愛着をもち主体的に人生を切りひらいていく力を育むための取り組みを進められたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飯田型キャリア教育では、地球規模で物事を考える広い視野と、生まれ育った地域に誇りと愛着を育むことが大切であると考えており、具体的には地育力を活用したふるさと学習や体験的な学びを実践することで進めています。これらの実践を関係者で共有する場として協議会やフォーラムを開催しており、また研究委員会ではその実践内容を深めるための研究をしています。</li> <li>・こうした取組を通じて、改めてキャリア教育を推進する重要性を認識するとともに、引き続きキャリア教育の理念を関係機関で共有し、質の高い実践につなげていきます。</li> </ul>	4-② 子どもの主体性、創造性、社会性、協調性、課題解決力などを育む学習の展開 <b>【分野別計画】</b>
5	・飯田コミュニティスクールと飯田型キャリア教育の関係性を明確にされたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飯田コミュニティスクールは、学校運営協議会を設置した学校であり、学校、保護者、地域住民等が「目指す子供像」等を共有し、その実現に向け協働しながら学校の運営に取り組む仕組みです。</li> <li>・また飯田型キャリア教育は、地育力を活用したふるさと学習や体験的な学びを、幼児期から高等教育期まで発達段階に応じて切れ目なく推進することで、子供達の生きる力を育む教育であり、地域の力を教育現場に活かしていくという点で共通するものです。</li> <li>・飯田型キャリア教育を、飯田コミュニティスクールの仕組みにより地域ぐるみで支え、地域の多様な人財を活用した体験的な学習を通じて子供達の生きる力を育む教育活動を、学校運営協議会で議論を深めつつ校区の特色を活かしながら進めていきます。</li> </ul>	4-② 子どもの主体性、創造性、社会性、協調性、課題解決力などを育む学習の展開 <b>【分野別計画】</b>
6	・担当課では、発信強化をどのように進めるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史研究所は、Webサイトのほか隔月発行の歴研ニュースにより、書籍の発行や講座の開催情報を発信しています。また講座等は可能な限りリモート配信を実施して、受講機会を提供できるよう努めています。また、講座等開催後には講座内容の概要等をWebサイトに掲載することで、飯田の価値と魅力を発信することに取り組んでいきます。</li> <li>・美術博物館では、公式Webサイトがアクセス数等から見て、情報発信ツールとして重要だと考えています。そのため、夏休み期間のほか展覧会、講座等の開催情報などを漏れなく更新するようになっていきます。また、講座についても可能な限りリモート配信を実施して、遠方で来館できない方への受講機会を提供することも情報発信の強化として取り組んでいきます。</li> <li>・考古博物館では、令和5年度に修復完了した「短甲」の初公開にスポットを当て、メディアを活用した情報発信、「短甲」を取り上げた事業を連続で行うなど、市民をはじめ多くの考古ファンの方が、「短甲」を通して、飯田古墳群、考古博物館を知っていただく手応えを感じました。・この実績を踏まえ今後は、展示更新、トピック展示などの話題を活用して、これまでの広報以外に、メディアを意識した情報提供、関連事業を工夫して実施し発信につなげていきます。</li> <li>・大学誘致連携推進室では、ムトスぶらざを有効に活用し、大学と連携した取組内容をインフォメーションコーナーで紹介したり、共有スペースに情報誌を配置する機会を増やすなどして発信強化に努めます。</li> </ul>	4-③ 飯田の価値と魅力の学びと発信 <b>【分野別計画】</b> 飯田市教育振興基本計画 考古博物館活用基本方針

基本目標4 豊かな「学びの土壌」を活かした「学習と交流」を進め、飯田の自治を担い、可能性を広げられる人材を育む

No.	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
		(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
7	・保存継承そして活用を観光につなげるため、観光課と連携した取り組みも記載されたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財等の保存継承に向け令和5年度では、旧小笠原家書院の学習会、飯田古墳群出土遺物・古墳探訪ツアー、恒川官衙遺跡体験学習等に地域・保存団体と連携して実施してきています。</li> <li>・このような取組の継続、支援するとともに、令和6年度では、観光・交流・学習の活用につながる文化財等の案内や発信のできる人づくりを小戦略とし、地域・保存団体、関係課等と連携して取り組みます。</li> </ul>	4-④ 伝統文化、文化財の保存・継承・活用の推進 【分野別計画】 飯田市教育振興基本計画
8	・後継者育成へ更なる支援を進められたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国指定文化財「遠山の霜月祭」は、保存会主体により後継者育成に取り組み、中学校文化祭披露や実際の祭典に関わった生徒が成人後に保存会へ加入するなど一定の成果をあげています。市では、こうした取組に補助金交付等による支援を行っています。</li> <li>・併せて、関係団体・県・広域連合・市等が参加する「南信州民俗芸能継承・振興協議会」(平成27年設立)では、民俗芸能の維持・継承、後継者育成を目的に、パートナーシップ企業制度の運営、交流イベント・研究集会・勉強会の開催、啓発広報等に取り組んでいますが、担い手の確保は厳しい状況にあります。</li> <li>・市におきましては、この協議会と連携して、後継者育成に向けた取組の推進に力を入れ継続していくとともに、後継者育成の気運、意欲の向上に期待する、「神楽」のユネスコ無形文化遺産登録を目指す全国推進団体の事業に取り組む保存会の活動を支援していきます。</li> </ul>	4-④ 伝統文化、文化財の保存・継承・活用の推進 【分野別計画】 飯田市教育振興基本計画
9	・「田中芳男」に代表される、郷土の偉人を研究し、広報されたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田中芳男は「日本の博物館の父」とされ飯田市が輩出した郷土の偉人の中では、菱田春草と並ぶ2枚看板ともいえる、市民にもっと知られて良い人物だと認識しています。</li> <li>・令和5年6月に、美術博物館に田中芳男に関連する資料が、約1500点寄贈され、国内有数の資料コレクションを有することになりました。今回の寄贈資料の展示公開を含め、特に田中芳男の調査研究成果を展示や講座を通じて市民に広報していきます。</li> <li>・田中芳男以外の郷土の偉人についても、生誕や没後などの時節に合わせて取り上げて顕彰し、市民への周知を図るよう取り組んでいきます。</li> </ul>	4-④ 伝統文化、文化財の保存・継承・活用の推進 【分野別計画】 飯田市美術博物館 2028ビジョン・基本プラン

基本目標4 豊かな「学びの土壌」を活かした「学習と交流」を進め、飯田の自治を担い、可能性を広げられる人材を育む

No.	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
		(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
10	<p>・貴重な資料等が散逸しないための、収蔵場所の確保を早急に進められたい。</p>	<p>・美術博物館は、改正博物館法の施行後、5年間の内に新たな「登録博物館」の基準を満たす必要があり、現在の収蔵庫の状況では厳しいことを認識しています。美術博物館の現敷地内に収蔵施設の増設は困難であることから、短期的には分散収蔵を視野に、一時的に収蔵できる施設として、未利用の教員住宅、学校空きスペース、空き家利用等実際に収蔵できる場所を移管先として検討を進めています。</p> <p>・将来的には、他の社会教育施設にも共通した課題であることから、美術博物館だけの収蔵施設とするのか、複数の社会教育施設が共同で使用できる収蔵庫とするのか、教育委員会全体で、具体的な収蔵施設建設に向けた、必要とする施設の規模や場所についても検討する必要があると考えています。そのため、美術博物館では、3つの分野ごとに必要な保存条件別に、今後10年で必要となる収蔵スペースの必要量(容積)の概算をまとめて、次の検討に入る準備を進めています。</p>	<p>4-⑤                      社会教育施設の整備、サービス向上  <b>【分野別計画】</b>                      飯田市美術博物館                      2028ビジョン・基本プラン                      考古博物館活用基本方針</p>
11	<p>・飯田学輪大学参加者及び参加可能講座が増える取り組みとされたい。</p>	<p>・年に1回開催している「飯田学輪大学」では、多種多様な10講座を用意し、駅に近いムトスプラザを会場に、事前申込なしで好きな講座を受講できる参加しやすい環境の整備に努めています。</p> <p>・飯田学輪大学 のほかに、分野も立場も異なる学輪メンバーと地域の研究者の協働で行う「☆とクレーター講座」といった講座を実施しました。</p> <p>・このような飯田学輪大学の通年化に繋がるような取組を、関係する機関とも連携しながら企画していくことで、市民の皆さんが参加しやすい機会づくりに努めていきます。</p>	<p>4-⑥                      大学の機能を活かした学びの推進  <b>【分野別計画】</b></p>

基本目標6 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

No.	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
		(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
1	・ひとりひとりの子どもの発達支援について、今まで結いキッズが担ってきた取り組みを今後も維持できるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度から令和4年度まで運営した「こども家庭応援センターゆいきっず」は、児童虐待の防止や児童の発達支援のため、乳幼児健診での専門相談のほか、短期の親子支援、入園前の発達支援学級や園への巡回訪問相談などを実施してきました。</li> <li>・令和3年度後半に保健課が「飯田市保健センター」へ移設集約されたことを契機に、途切れない子育て支援・発達支援を一層推進するための新たな相談支援体制について見直し研究を重ねました。</li> <li>・令和5年度からは、旧ゆいきっずを「こども家庭課こども相談係」として再編し、これまでの心理系専門職体制から、社会福祉士や教職系相談員などを加えた「総合的な子育て相談支援体制」へと人員体制を強化しました。</li> <li>・令和6年度より、改正児童福祉法を踏まえ、新たに「こども家庭センター」組織を確立し、従来の機能と業務を維持継続しつつ、多様化する子育て相談支援ニーズに応じられるよう、不断に見直しを行っていきます。</li> </ul>	6-③ 孤立を防ぎ、子育ての希望をかなえる 【分野別計画】 第二期子育て応援プラン
2	・少子化の中での保育ニーズへの対応と人材確保を図りたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子化の進行により市全体の園児数は減少していますが、女性の社会進出、産後復職の早期化、共働き世帯の増加などにより、3歳未満児の保育ニーズは高まっています。</li> <li>・核家族化の進展や地域とのつながりの希薄化などにより、子育ての不安や孤立感など心理的負担が高まっています。こうして、保育時間や入所年齢の拡大を求める声のほか、通園児の家庭でない子育て世代からも、地域資源としての子育て相談支援機能が求められています。</li> <li>・これらのニーズへ対応するには保育人材の確保が課題であり、市は幼児教育・保育人材の採用と定着を促進するため、民間保育園等における職員宿舍の借上げ、就職(復職)支度金の支給、インフルエンザ予防接種などの福利厚生事業について、積極的に支援しています。</li> <li>・また、幼児教育・保育人材コーディネーターを配置し、地域に潜在する保育士等有資格者の掘り起こしに取り組むとともに、保育士養成校へ訪問して「いいだ型自然保育」の魅力を学生に伝えるなど、圏域外からの保育人材の獲得に取り組んでいます。</li> </ul>	6-④ 飯田の持ち味を活かし、豊かな育ちを支える 【分野別計画】 第二期子育て応援プラン

基本目標9 20地区が輝く活き活きとした地域づくりを地域主体に進める

No.	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
		(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
1	<p>・「緩やかなつながり」の部分を具体的にどう考え、地域に展開していくか、入口の考え方としては良いが、地域自治を担いゆく市民をどう育てていくかが今後の課題と考える。</p>	<p>・「緩やかなつながり」は組合等の自治活動組織と未加入の方とのつながりであり、今後の加入につなげていく取組です。</p> <p>・今までは、自治活動組織の未加入者とのつながりが全くない状況であったり、自治活動組織の活動が加入者のみを対象としていた活動が多いと考えますが、関係性(つながり)を生む活動にも取り組んでいく必要があると捉えています。</p> <p>・地域自治の担い手の育成については、公民館などと共に考えていきます。</p>	<p>9-①                      住民みんなで進める自治を育む                      【分野別計画】</p>
2	<p>・隣近所との「緩やかなつながり」は中身の説明があったが、市民への周知や自治会加入への反映状況が伝わってこない。</p>	<p>・自治活動組織の活動については、各地区のまちづくり委員会が主体となって取組を実施していただいています。</p> <p>・「緩やかなつながり」は、つながりを作るためのきっかけとするものであり、組合加入率の相違などにより、地区によって取組の必要性、取組の度合いが大きく異なることから、一律に推進するものではなく、参考例としてお示したものです。</p> <p>・組合加入率向上の取組は、一朝一夕に結果の出るものではなく、幅広い関係づくりを継続して実施していく必要があります。</p>	<p>9-①                      住民みんなで進める自治を育む                      【分野別計画】</p>
3	<p>・なぜ「一部地区では創意工夫の取組が継続されている」が取組の成果となるのか疑問である。一部地区という認識があるのであれば、全地区で創意工夫の取組ができるよう、今後の方向性で触れるべきと考えるが、触れられていないのは疑問である。</p>	<p>・組合未加入対策は、加入率の違いなどにより、地区ごとに取組の方向性や内容に相違があることから、創意工夫の取組は参考例の一つとして各地区間で情報を共有しています。</p> <p>・引き続き、市では各地区独自の取組について支援していきます。</p>	<p>9-①                      住民みんなで進める自治を育む                      【分野別計画】</p>
4	<p>・加速度的に進む少子高齢化による地域の人材不足や、コロナ禍で経験してきた地域行事の在り方と今後についても、コーディネートする必要がある。</p>	<p>・各地区で抱える課題(事業や組織の見直し、役員の負担軽減、地域コミュニティの維持など)について、引き続き、自治振興センターを中心に支援を進めていきます。</p> <p>・令和6年度より、公民館と連携して地域課題解決の担い手育成の仕組みの研究を進めることで、地域の人材不足の解消につなげることや、地域行事の今後の在り方の糸口を探ります。</p>	<p>9-①                      住民みんなで進める自治を育む                      【分野別計画】</p>



基本目標9 20地区が輝く活き活きとした地域づくりを地域主体に進める

No.	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
		(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
5	<p>・全市的な面からの提案として、市からの配布物が役員の負担となっているとの声も聞く。デジタル化で対応できる物や対応できる市民にはそうされることが負担軽減にもなるし、若年層にはその方が市からの情報が伝わるようになる。またデジタル回覧板の導入を検討されたい。</p>	<p>・市からの配布物における配布日は年間を通じて決まっています。また、配布数等の削減にも取り組んでいます。</p> <p>・若年層を始めとした市からの情報を求める方は飯田市Webサイトを活用されています。市においてもWebサイトの内容やSNS等のデジタル媒体による拡充を進めており、幅広い層に向けた情報発信に対応しています。</p> <p>・デジタル回覧板の導入につきましては、人と人の顔の見えるつながりや地域コミュニティに考慮しながら、昨今の役員負担の軽減を図れるものなのか研究を進めます。</p>	<p>9-①                  住民みんなで進める自治を育む  <b>【分野別計画】</b></p>
6	<p>・行政と地域役員の考え方や知識にギャップが生じていないか、地域で気付いている事、気付いていない事を見極め、各地区の魅力に磨きをかけるための支援ができています。</p>	<p>・「20地区田舎へ還ろう戦略」は、藤山浩さんの「田園回帰1%戦略」の考えを飯田市版に置き換えて進めてきたものです。この戦略は、それぞれの事業内容や取組の度合いなどに違いがあり、進捗を一律の指標で示すのは難しいですが、20地区それぞれにおいて、地区の基本構想・基本計画の実現に向けた活動のうち、関係人口や交流人口につながる活動を「田舎へ還ろう戦略」とし取り組み、市ではその活動を支援しています。</p> <p>・市においては、同戦略を開始してから6年が経過する中、役員交代やコロナ禍による活動の縮小により「田舎へ還ろう戦略」の言葉だけが先行していると感じ、地域の皆さんと意義を再認識していく必要があると考えています。</p> <p>・令和6年度は「田舎へ還ろう戦略」の意義の再認識のための研修を、地域の皆さんと共に進めていきます。</p>	<p>9-②                  地域の担い手を確保し、活力を維持するための「20地区田舎へ還ろう戦略」の推進  <b>【分野別計画】</b></p>
7	<p>・行政が支援するにあたり20地区に深くかかわる人材(例としてセンター職員)をどう育成していくべきか取り組みの中で明確にする必要がある。(ジェネラリストとスペシャリストの考え方)</p>	<p>・令和6年度に計画している20地区田舎へ還ろう戦略の再認識の学びなどの地域振興に係る研修に、自治振興センター職員や公民館主事も参加することにより、職員の知識や意識を高めていきます。</p>	<p>9-②                  地域の担い手を確保し、活力を維持するための「20地区田舎へ還ろう戦略」の推進  <b>【分野別計画】</b></p>

基本目標9 20地区が輝く活き活きとした地域づくりを地域主体に進める

No.	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
		(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
8	<p>・関係人口・交流人口について、コロナ禍で中断していた今までの取り組みや活動を再構築し、コロナ前の熱量に上げていく必要がある。</p>	<p>・コロナ禍を経て、役員改選等もあり、以前の活動状況の引継ぎや継続に苦慮しつつも、新型コロナウイルス感染症が5類感染症になって以降、各地区では、事業、行事、イベント等が再開されてきています。</p> <p>・様々な取組や活動の大切さを実感する声があり、20地区それぞれが主体となり進めている地区の魅力づくりを、各自治振興センターと関係部署が情報共有し、支援・推進を図っていきます。</p> <p>・関係人口の創出や移住定住の推進においては、移住定住の何度も通う関係性を築き、その場所に自身の居場所があるという必然性を創っていくプロセスが重要であり、人と人の出会いやつながりによって、自身の力を発揮し、何かしらの新たな仕事を創っていくことができる土壤に、意識や志の高い若者が引き寄せられていくという実態があります。</p> <p>・地方移住への関心が高まり、若者世代が自己実現の場を地方へ求める動きが加速したコロナ禍において、当市では関係人口創出の取組に注力してきた結果、移住者の増加につなげることができました。</p> <p>・その結果を踏まえて、地域に誇りと愛着を持って住み続けたいと思う意識を持ち、地域の個性と魅力を創出しようと汗をかく、そうした市民の方の存在は、都市部住民等との交流を促進し、地域に継続的なつながりを持ってくれることから、今後、より強力に推進していきます。</p>	<p>9-②                      地域の担い手を確保し、活力を維持するための「20地区田舎へ還ろう戦略」の推進                      【分野別計画】</p>
9	<p>・「20地区田舎へ還ろう戦略」は各地区の取り組み状況を見る必要がある。また「20地区田舎へ還ろう」の用語を地区で耳にする機会が少なくなっており、意義の再確認が必要である</p>	<p>・「田舎へ還ろう戦略」は、20地区が基本構想、基本計画を推進し、地域資源を活用した魅力づくりや、地域課題解決に向けた活動など、住民が暮らしやすい地域づくりを進めることで、関係人口の拡大につなげていきたいとするものです。そういった20地区の取組が、現在の移住定住実績へとつながってきています。</p> <p>・取組の意義や実績を20地区で共有しつつ、今後も、移住定住への情報発信サイト等で地区の魅力を発信し、交流・関係人口の創出・拡大へ向けたマッチングを図り、市に関心を持っていただいた方と地域との関係性を深める取組を進めていきます。</p>	<p>9-②                      地域の担い手を確保し、活力を維持するための「20地区田舎へ還ろう戦略」の推進                      【分野別計画】</p>
10	<p>・地域おこし協力隊について現在は中山間7地区の地区ごとの課題解決に当たっているが、全市的な視点での課題解決、情報発信を取り組みのテーマにする必要がある。</p>	<p>・現在、地域おこし協力隊は、中山間地域で地域資源の活用や地域課題の解決に向けた取組を地域と連携しながら行い、地域の活性化につなげています。</p> <p>・中山間地域で活動している地域おこし協力隊の制度に加え、全市的な視点での課題解決を図り、地域の活性化につながるような地域おこし協力隊の設置について、検討を進めます。</p>	<p>9-②                      地域の担い手を確保し、活力を維持するための「20地区田舎へ還ろう戦略」の推進                      【分野別計画】</p>

基本目標9 20地区が輝く活き活きとした地域づくりを地域主体に進める

No.	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
		(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
11	<p>・中山間地域のトレンドと全体像がわかるような客観的な評価指標となっているか、自治振興センターの評価ではなく、住民の評価となっているか。</p>	<p>・中山間地域のみ直接的にかかる指標は、「5人以上の移住者の誘致が実現した中山間地区数」としており、これは地域の魅力や取組に関心を持った方が移住した実績に基づく指標となっています。</p> <p>・今後、上記指標のほか、客観的な評価につながる指標があれば追加する等検討していきます。</p>	<p>9-③                      中山間地域をもっと元気にする                      【分野別計画】</p>
12	<p>・中山間地域は人口減少、少子高齢化の課題先進地であり、持続可能な地域としていくため更なる連携強化が求められる。これからの地域づくり担う壮年層の組織化支援が必要である。</p>	<p>・人口減少と高齢化の傾向が顕著である中山間地域では、それらの影響を最小限に留め、持続可能な地域づくりを進めていくことが急務です。</p> <p>・中山間地域の意見交換や情報共有の場として中山間地域連絡会議等を開催しています。そうした会議等を通して、地域づくりへの参画事例等の共有や意見交換会を行い、持続可能な地域に向けた取組を進めます。</p>	<p>9-③                      中山間地域をもっと元気にする                      【分野別計画】</p>
13	<p>・中山間地域の活力が飯田市全体にとって必要ならば、地域と行政の協働というがそれのみならず、地域住民の機運醸成など全市的な取り組みを行政は模索すべき。</p>	<p>・中山間地域は自然や景観、伝統文化など多くの地域資源があり、それぞれの地域の魅力は飯田市の魅力です。これらの地域資源の保全・活用を地域と行政が一体となって取り組むとともに、それらの活動を市内外に情報発信し、住民の機運醸成にも取り組みます。</p>	<p>9-③                      中山間地域をもっと元気にする                      【分野別計画】</p>
14	<p>・今後の方向性でうたっている「地域課題の解決に向けた組織の設立～」は中山間地に限らず、全市的な課題と捉えて小戦略9-①に集中しても良いのではないかと。</p>	<p>・中山間地域では、すでに地域課題の解決に向けた組織が設立された地域もあるため、そうした組織の情報共有を図り、他地区の参考事例とします。</p> <p>・今後も、中山間地域において課題解決に向けた組織づくりを研究し、全市的な地域課題解決につながるものは、20地区の実状に合わせた横展開を図り、地域と協働しながら進めます。</p>	<p>9-③                      中山間地域をもっと元気にする                      【分野別計画】</p>

基本目標10 個性を尊重し、多様な価値観を認め合い、活動の場を広げる

No.	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
		(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
1	<p>・さまざまな活動が展開されている点は評価するが、産業振興、環境意識の醸成教育などの複数分野にまたがるエシカル消費は、基本目標内での取り組みの整理をされたい。</p>	<p>・エシカル消費(人や社会、地域、環境に配慮した消費行動)を促すには、生産・製造過程から流通といった産業面、地域循環や販売といった経済面、汚染や脱炭素といった環境面、消費者の意識の醸成など、それぞれの側面からの様々な取組が求められます。</p> <p>・消費者の行動変容につなげるためのエシカル消費の啓発は令和6年度から、基本目標11小戦略①「環境文化都市実現への学びと行動変容」に変更し、エシカル消費の普及啓発に取り組んでいきます。</p>	<p>10-①                      多様性とムトスの行動力でまちづくりを推進                      【分野別計画】</p>
2	<p>・消費生活相談に関する記述が多くなっており、「多様性」と「安心して暮らせる地域づくり」をこの小戦略で一緒に扱うことに違和感を覚える。</p>	<p>・令和6年度から、基本目標10-②を「多様な価値観を認め、支え合う地域づくり」に変更し、多様性に特化した内容に改めました。</p>	<p>10-②                      多様性が尊重され、安心して暮らせる地域づくり                      【分野別計画】</p>
3	<p>・消費生活センターの所管について、市民課に留まらず、危機管理部などの関連部署との連携も検討されたい。</p>	<p>・電話でお金詐欺(特殊詐欺等)は危機管理部と情報共有し、安全安心メールでの情報発信を行っています。令和5年度は防犯の啓発活動を共同実施しました。</p> <p>・啓発の内容や対象に応じて、危機管理部、健康福祉部などの関係部署、学校や警察などの関係機関と連携した取組に努めます。</p>	<p>10-②                      多様性が尊重され、安心して暮らせる地域づくり                      【分野別計画】</p>
4	<p>・高齢者への消費者トラブル回避のための取り組みについては、情報弱者への情報提供に今後も配慮が必要である。</p>	<p>・高齢者が集まる機会を捉えて、「詐欺や悪質商法の被害にあわないために」というテーマで出前講座を行っています。(R5.12末実績 28回485名)</p> <p>・各地区の民生児童委員会や健康福祉委員会、包括支援センターと連携した取組を行っています。詐欺の手口や、消費者トラブルの事例などの情報を提供・共有し、地域の活動や個別訪問などで情報弱者の皆さんへの情報提供を依頼しています。同時に、困ったときの相談窓口である消費生活センターの案内も積極的に行っております。</p> <p>・今後も、できるだけ多くの方に情報提供できるよう、「広報いいだ」をはじめ多方面からの情報発信に努めていきます。</p>	<p>10-②                      多様性が尊重され、安心して暮らせる地域づくり                      【分野別計画】</p>

基本目標10 個性を尊重し、多様な価値観を認め合い、活動の場を広げる

No.	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
		(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
5	・ワーク・ライフ・バランス推進の取り組みの中身が見えないため、従業員の人事、給与からも検討すべき。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度は、国の政策によりワーク・ライフ・バランス推進の事業主行動計画を策定する義務のある従業員101人以上の事業所を33社を訪問しました。</li> <li>・訪問にあたり、正規や非正規社員の構成比、男女の割合、育児休暇や時短勤務等の実態調査や工夫点のヒアリングを行いました。</li> <li>・どの事業所も、行動計画に基づいて、人事面に配慮しながら、従業員のワーク・ライフ・バランスを進めている実態が伺えました。一方で給与面での優遇については、経営に直結する事項であるため、どの事業所も給与面から推進することには課題があるとの回答を得ています。</li> </ul>	10-② 多様性が尊重され、安心して暮らせる地域づくり 【分野別計画】
6	・特に年齢の高い市民に、世代間でどのようなギャップが出ているかなどの具体的な事例を出して啓発するなど、アンコンシャスバイアスの認識の浸透が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度は、飯田市役所の管理職を対象にした人事研修として、無意識の思い込み(アンコンシャスバイアス)への気づきを促す研修を、2月に行いました。</li> <li>・この研修を踏まえて、市民にどのように啓発していくか検討していきます。</li> </ul>	10-② 多様性が尊重され、安心して暮らせる地域づくり 【分野別計画】
7	・ジェンダーギャップが若年層の流出や地元回帰に影響を及ぼしている場合が少なくない。飯田市を外から見た時のイメージやブランディングにも直結すると考えられ、移住定住に関わることであり、全市的にさらに取り組まれない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飯田で暮らす皆さんが、地域への愛着を育みながら、自分らしい生き方や暮らし方、また働き方を実現できるよう、ムトスぶらざを拠点にして、自分たちの想いを形にする市民活動や、自分の特技や関心事を活かした起業への支援を行っています。</li> <li>・老若男女を問わない対象者への支援により、地元回帰率が低い若年層や女性に対し、自己実現を積極的に応援する飯田市というイメージやブランディングにつなげ、地元回帰に結びつけていきます。</li> <li>・また、飯田市内の3つの高校の約500人の生徒を対象に、家庭総合の授業時間の中で、市の出前講座として「ライフデザインセミナー」を実施しました。</li> <li>・これから社会に出る高校生が多様な生き方を学ぶ機会とするため、「出産、子育て」を切り口に、本年度は、性別による固定的な役割意識にとらわれない生き方について学んでもらう機会にしました。</li> </ul>	10-② 多様性が尊重され、安心して暮らせる地域づくり 【分野別計画】
8	・今後は「外国人も日本人も関係なく地域として受け入れていけるまち」にシフトしていくことを考えられたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飯田国際交流推進協会と連携し、国籍、文化や言語の違いを超えた交流の機会を日常的に作り、相互理解の場を増やしていきます。</li> <li>・また、多文化理解につながる活動を担う人材確保を継続して進めていきます。</li> </ul>	10-③ 国籍や文化等の多様性を認め合い、外国人住民と共生する地域づくり 【分野別計画】

基本目標13 リニア・三遠南信時代を支える都市基盤を整備する

No.	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
		(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
1	<p>・交流重心にかかる土地利用・景観育成の検討は広く市民に関わる案件であり、意義や方向性について十分な理解が得られるよう説明・提案をしていくことが必要。</p>	<p>・市の「リニアの整備効果を地域振興に活かすビジョン(案)(以下、「リニアビジョン」という。)における、「リニアビジョンの実現に向けた土地利用計画の見直しの考え方と進め方」について、令和5年3月20日に改訂版を公表しています。</p> <p>・その考え方については現在、庁内で検討を進めており、景観のあり方については、令和5年度末を目途に、「環境・景観配慮指針(案)」をたたき台としてお示しできるよう鋭意進めています。また、土地利用のあり方についても、令和6年度にお示しできるよう同様に進めています。これらの案件は、これまで関係する住民の皆様と一緒に基準を定めてきている経緯等を踏まえ、引き続き協議を重ね地元まちづくり委員会を通じて周知を行うなど、市民の皆様のご理解をいただきながら進めていきます。</p>	<p>13-①                      リニア・三遠南信時代を見据えた良好な土地利用の推進                      【分野別計画】</p>
2	<p>・「信州まちなかグリーンインフラ推進計画」や「眺望点」などの県と連携した取り組みは評価できるが、点の取り組みに留まっているように感じた。広域的・全市的な視点にたった土地利用・景観形成を進めていくためには、20地区を視野に入れた広域的な取り組みが必要。</p>	<p>・市内各地区への取組みの支援については、引き続き地域土地利用方針及び地域景観計画の策定など連携して取組を進めていきます。</p>	<p>13-①                      リニア・三遠南信時代を見据えた良好な土地利用の推進                      【分野別計画】</p>
3	<p>・「景観のあり方」について、リニア駅周辺整備の一環としてのみ検討が行われているようだが、ランドスケープについては過去の産業建設委員会において、例えば西部山麓線からの眺望などにも触れてきた経緯があり、三遠南信道を活かすためには重要な要素となる。専門家の知見も得やすい環境にあることから、「景観のあり方」の検討範囲を広げて取り組むことが必要。</p>	<p>・「景観のあり方」については、リニア駅前広場で検討している「建築物等の意匠基準(デザインコード)」を基にリニア駅周辺さらにはその近郊へと拡げていくという考え方で取組を進めています。</p> <p>・市の「リニアの整備効果を地域振興に活かすビジョン(案)」における、観光拠点等の具体的な取組の中で、西部地域(西部山麓線沿い)エリアについては、その眺望と既存の自然環境を一体的に活用することで、地域の魅力を積極的に発信し多様な交流や観光消費の拡大につなげていけるよう取り組んでいきます。</p>	<p>13-①                      リニア・三遠南信時代を見据えた良好な土地利用の推進                      【分野別計画】</p>
4	<p>・土地利用計画の変更に係るリニア駅周辺の土地利用構想の検討は、市の政策の方向性と地元の意向による過去の経緯を踏まえながら、地元、及び議会への丁寧な説明を要する。</p>	<p>・市の「リニアの整備効果を地域振興に活かすビジョン(案)」を実現するため、庁内関係部署で連携して、今後の土地利用のあり方や景観のあり方を検討する「土地利用構想検討会議」を立ち上げました。</p> <p>・リニア駅周辺の土地利用構想における検討内容や進め方については、座光寺、上郷地区の皆様との協議を経て決定してきた地区計画などの経過を踏まえ、丁寧に説明するとともに、議会や地域の皆様にご理解をいただきながら進めていきます。</p>	<p>13-①                      リニア・三遠南信時代を見据えた良好な土地利用の推進                      【分野別計画】</p>

基本目標13 リニア・三遠南信時代を支える都市基盤を整備する

No.	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
		(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
5	<p>・広域的な道路ネットワークを考えた時、リニアや道路を利用する皆さんが、具体的な導線をイメージできるような展開が必要。</p>	<p>・リニアや三遠南信道の整備により、都市圏を中心に来訪者の増加が見込まれますが、これを契機として当地域への新たな人の流れを創出し、多様な交流につなげていくために、社会基盤としての道路整備を着実に進め、町村も含めた各拠点間の連携を強化していきます。</p> <p>・連携に向けた交通の軸となる道路については、市内の内環状道路軸、中環状道路軸、当地域内をつなぐ外環状道路軸の他に、広域道路軸としての西部軸、中央軸、東部軸、東西横断軸があり、これらを当地域内のそれぞれの拠点をつなぐ軸として位置付けます。このうち、西部軸の国道153号飯田南バイパス、東部軸の県道1号線、外環状道路軸の国道152号などについては、国や県との連携を図りながら整備を推進していきます。</p>	<p>13-②                      リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の整備効果を地域振興に活かす広域交通拠点整備と広域道路ネットワークの強化                      【分野別計画】</p>
6	<p>・代替地については、約9割の地権者の皆さんに同意をいただいているとの説明であった。残り1割の地権者の皆さんについては、移転場所や補償額等さまざまな要因があると推測するが、引き続き地権者の皆さんに寄り添った丁寧な案内をお願いしたい。</p>	<p>・移転をお願いする地権者の皆様に、補償内容や補償額について、引き続き丁寧な説明を心掛けていきます。また、移転先についても、希望を伺いながら、出来るだけ希望に沿った移転先となるように地権者の皆様と一緒に検討を行っていきます。</p> <p>・引き続き、地権者の皆様に寄り添った丁寧な説明や対応を心掛けていきます。</p>	<p>13-②                      リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の整備効果を地域振興に活かす広域交通拠点整備と広域道路ネットワークの強化                      【分野別計画】</p>
7	<p>・リニア駅前広場や高架下の管理運営は施設整備後の大きな課題であり、民間活力を導入しながら着実に検討を重ねられたい。また、リニア開業の具体的な時期が見通せない民間参入が難しいとの状況は理解するが、その中にある進捗状況は適宜説明されたい。</p>	<p>・リニア駅周辺整備基本設計のデザインノートでは、広場や高架下空間の管理運営について、行政だけでなく民間の事業者と協働して多くの人に使われる持続性の高い空間を実現するとしています。</p> <p>・令和5年度から公民協働ブランドクリエイティブプロジェクトにおいて、「管理・運営事業者が担う事業性が見込める事業についての整理・検討」、「地域の魅力の発信を担う民間事業者が参画するプラットフォームの構築に向けての検討」を進めており、今後は民間事業者に参画していただく時期や方法等についても検討を進め、随時進捗状況について説明していきます。</p> <p>・JR東海に対しては、引き続き開業時期の明確化を求めつつ、その状況によっては駅前広場の段階的な供用も視野に入れた広場の活用方法や維持管理等の方針を改めて検討していく必要があります。</p>	<p>13-②                      リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の整備効果を地域振興に活かす広域交通拠点整備と広域道路ネットワークの強化                      【分野別計画】</p>

基本目標13 リニア・三遠南信時代を支える都市基盤を整備する

No.	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
		(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
8	<p>・市民生活に欠かせない持続可能な地域公共交通を実現するためには、今後も更に精緻な実態調査を行ったうえで、方向性を検証していくことが必要である。現状は、特に乗り合いタクシーの利用者数がなかなか回復しない状況と認識している。全国の事例では、利用者数を増やすため、セダン車両の使用や医療機関の協賛広告などで利用料金を下げ利便性を改善している例もあり、参考にされたい。また、高齢者や免許返納者などの交通困難な方への対応は、喫緊の課題でありスピード感を持って進められたい。</p>	<p>・公共交通の利用実態把握や利用環境向上に向けた課題を抽出するため、昨年8月に市民向けアンケート調査を実施し、利用者の意向等を確認しました。アンケート結果では、停留所までの距離や、運行の時間・目的地が合わないことへの意見が多く見られたことなどから、今年3月に山本地区において、運行時間を拡大した(便数を増やした)ドア・ツー・ドア移送の乗合タクシーの実証運行を1カ月間行うこととしています。この運行を基に利用者のご意見を伺い、運行形態への需要状況の確認を行うとともに、高齢者等が利用しやすい公共交通について、他自治体の取組を参考にしながら検証と検討を進めます。</p> <p>・高齢者や免許返納者などへの対応は、福祉分野のサポートと公共交通の両面に関わる課題であり、個々人に応じた移動支援の在り方と、公共交通サービスの在り方について、庁内で連携しながら検討していきます。</p>	<p>13-③                      リニアの2次交通及び持続可能な地域公共交通の実現と、AI等を活用したスマートモビリティの実装技術                      【分野別計画】</p>
9	<p>・自動運転車両の導入については、利用データや手法など、日々進化していくことが推測されるため、常に情報収集しながら、地域にマッチした導入手法を検証していくことが必要。</p>	<p>・令和6年4月に市内において、自動運転実証実験(レベル2)を予定しています。</p> <p>・自動運転の導入に当たっては、安全性の確保が重要であり、データの整備とシミュレーション、検証等を繰り返しながら、導入に向けた検討を進めていきます。</p> <p>・また、昨年度連携協定を締結した事業者等から最新情報を収集するなど地域にふさわしい新たなモビリティ導入について引き続き研究、検討を進めていきます。</p>	<p>13-③                      リニアの2次交通及び持続可能な地域公共交通の実現と、AI等を活用したスマートモビリティの実装技術                      【分野別計画】</p>
10	<p>・「この地域らしさを活かしたスマートモビリティ」の意味は「環境への配慮」とのことで、大切な取り組みと評価するが、一歩進めて「環境に特化」という意識をもつことが、環境文化都市としての役割とを感じる。</p>	<p>・交通の視点から環境への意識を高めるためには、人工知能、情報通信技術など様々な最新のテクノロジーを活用した効率的で利便性の高い交通システムの構築やサービスの提供による交通の流れの最適化、渋滞の緩和、安全性などの実現とともに、より多くの市民の皆さんにこうした技術を活用した公共交通を利用いただく行動変容を促す取組の両面から環境負荷低減につなげることが重要と認識しています。引き続き将来的な新世代モビリティの実現を目指した検討を進めつつ、公共交通の利用促進に取り組んでいきます。</p>	<p>13-③                      リニアの2次交通及び持続可能な地域公共交通の実現と、AI等を活用したスマートモビリティの実装技術                      【分野別計画】</p>



基本目標13 リニア・三遠南信時代を支える都市基盤を整備する

No.	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
		(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
11	<p>・JR飯田線の存続に向けた取組みの強化を図りたい。また、飯田線との接続方法や周辺整備についての方針、進捗状況について適宜説明されたい。</p>	<p>・JR飯田線は、当地域の重要な交通手段であるとともに重要な観光資源でもあると認識しており、その存続及び利便性向上に向けては、沿線の自治体、団体に組織するJR飯田線活性化期成同盟会が丸となって取り組むことが重要と考えています。引き続き、リニア時代におけるJR飯田線の在り方も踏まえた観光資源としてのさらなる活用や、イベント列車の運行によるPR、JR東海に対する要望活動といった同盟会事業に関係団体とともに取り組んでいきます。</p> <p>・リニア駅とJR飯田線との接続については、元善光寺駅と飯田駅それぞれに新しい交通システムによる接続を想定しており、その中で効果が非常に高いと期待される自動運転移動サービスについて検討を進めています。</p> <p>・令和6年4月に予定する自動運転の実証実験の状況や、検討状況等について随時報告していきます。</p>	<p>13-③                      リニアの2次交通及び持続可能な地域公共交通の実現と、AI等を活用したスマートモビリティの実装技術  <b>【分野別計画】</b></p>
12	<p>・DXを推進していくことは、市民生活の利便性の向上につながることを認識している。一方で高齢者など、デジタル社会に一線を引いている市民の皆さんも存在しているため、そうした皆さんを視野に入れた施策展開が必要。また、DXの推進については、他自治体との共同企画・利用など、広域的視点を持って取り組まされたい。</p>	<p>・人口減少、少子高齢化による担い手不足への対処として、デジタル技術導入による効率化や省力化が必要であると考えております。国の令和5年度情報通信白書によると高齢者のインターネット利用率は、「70代で65.5%」、「80代で33.2%」との結果も出ており、年々利用率は上昇してきておりますが、デジタル技術に抵抗感を感じる方も一定程度あることから、デジタル技術に親しむ機会を創出し、「誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化」となるよう、推進してまいります。</p> <p>・また、広域的な取組としては、南信州広域連合が「ICT環境整備利活用研究会」を組織しており、DXに関する情報共有や連携事業の協議のほか、市が実施するDX推進イベントや研修会への参加を呼びかけており、今後も広域的な視点を持って取り組んでいきます。</p>	<p>13-④                      市民サービスを向上するデジタル化の推進  <b>【分野別計画】</b></p>
13	<p>・LINEによるプッシュ型情報発信の取組みは評価するが、利用者数が伸び悩み傾向にある。例えば、自然災害発生時の情報伝達手段の一つとして、どのような効果が期待できるかをアピールするなどして、飯田市地域情報アプリと共に、利用者の増加に力を注がれたい。</p>	<p>・LINEはプッシュ型の情報発信ツールとして導入していますが、行政手続のプラットフォームとしての活用もできることから、LINEを手続案内の入口として様々なサービスに結び付けていくことで、市民サービスの利便性向上や利用者数の増加に取り組んでいきます。</p>	<p>13-④                      市民サービスを向上するデジタル化の推進  <b>【分野別計画】</b></p>